令和5年 10月24日(火)



盛岡市地域福祉ワークショップだより【盛南版】〔本宮・仙北・繋・太田〕

NEWS LETTER

発行 **地方創生いわて 事業協同組合**

(委託元) 盛岡市地域福祉課

10/18(水) 第4回盛南圏域で開催

盛岡市では、10/18(水)に盛岡タカヤアリーナ2階会議室において、第4回目となる「地域福祉ワークショップ(盛南圏域)」を開催しました。

このワークショップは、令和7年度を始期とする「第3期盛岡市地域福祉計画」の策定にあたり、今年度、市内各地区のみなさんから、「人と人とがつながり、共に支え合うまちづくり」を大きなテーマに、各地区での現在の取組と、将来への希望などのご意見をうかがうために開催しており、日常生活圏域に基づき7つに分けて行います。

ワークショップ当日の様子といただいた意見の概要につい て、お伝えいたします。

第4回の盛南圏域では、9グループに分かれて、参加者42名が意見交換を行いました。

【当日のタイムスケジュール】

18:30

■開会

- ・市地域福祉課より挨拶と趣旨説明。
- ・本日の進め方 (グループごとの話し合い) に ついて説明。

18:45

■グループごとの話し合い

各グループには、参加者の話し合いのサポートをする進行役が1名入りました。進行役には、大学生も3名が参加しました。

・グループごとに自己紹介

・地域の交流、顔の見える関係づくり、安心して暮らせる地域づくりのために、今、地域で取り組んでいること、これから取り組みたいことなどについて話し合いました。



▲模造紙に貼り出されたコメント

20:00

■グループ発表

各グループで話し合ったことを発表し、参加 者全員で確認しました。



▲グループ発表の様子

20:30

■あいさつ・事務連絡

▲会場風景(その1)

▲会場風景(その2)

伝統や文化の継承と世代間交流、ひとりでも孤立しないまちづくり

盛南圏域のワークショップで話し合われた内容の一部をお伝えします。

現状と課題

地域の活動

- ・老人クラブの活動が停滞している。
- ・世代間交流(小正月行事など)が行われている。
- ・文化祭、防災、スポーツの取り組みがある。
- ・サロン活動、ふれあいデイサービスなどの実施。
- ・環境活動(草取り、資源リサイクル活動など)で住民が交流している。
- ・プランターによる花壇づくり、ハンギングバスケットの取組み。
- ・通学路での子どもの見守り活動。子ども会との交流の活動。
- ・集まりの機会(子育て活動の集まり、ふれあいの機会など)を増やす必要がある。
- ・新旧住民、または新しい住民同士の交流の行事が必要である。
- ・伝統行事や祭りを継承することが課題である。
- ・近所づきあいの再生を図る必要がある。
- ・多くの人を巻き込んだ活動が必要である。

生活面の不便

- ・買い物に行くところがない。
- ・買い物支援(サポーター)を行っている。
- ・産直や事業所による出張販売の取り組みがある。
- ・ゴミ出しや除雪を支援するしくみづくりが必要である。

交通の便

- ・バスの路線がない。 便が減って利用できないため、 買い物や通院が困難 になっている。
- ・コミュニティバスなど、地域の事情に合わせた何らかの対策が必要である。

鳥獣被害

- ・クマやイノシシ、ヒヨドリ・ムクドリなどの鳥獣被害対策が必要である。
- ・国・県・大学などの関係機関との連携した取組が必要である。

担い手づくり

- ・地域の活動を担う後継者対策が必要である。
- ・子どもたちの親の世代が取り組むことのできるようなまちづくりの活動が必要である。
- ・高校生など若い人を巻き込んだイベントを行う必要がある。
- ・地域の担い手を確保するには、農業振興など地域振興も必要である。
- ・行政にはもう一歩踏み込んだ自治会支援をしてほしい。

今後に向けて

交流の推進と担い手づくり

- ・サロンの開催を継続していく。
- ・交流イベントや環境活動などを通して、新旧住民の交流 を進める。
- ・高齢者、子ども、子どもの親が一体となったまちづくりを進める。
- ・年代を問わず世代間で交流する居場所づくり、交流機 会づくりを進める。
- ・伝統や文化、行事をつないでいく活動を通して世代間の 交流を進める。
- ・若い世代の人々が関わることのできる活動をめざす。

助け合い意識の醸成

- ・ひとりでも孤立しないまちづくりを目指す。
- ・隣近所の交流による困った時に相談できる関係づくり。
- ・ひとり暮らし世帯への配慮、見守り。
- ・日常的な些細なことから、困っている人に声をかけたり助 けたりする活動を行う。
- 駅での Suica 利用など、I T活用に向けた高齢者支援を行う。
- ・愛称として「○○○のまち向中野」「○○○通り」など、地域に親しみを持ってもらう取組み。

生活の支援

- ・買い物や通院の支援を行う。
- ・コミュニティバスの運行や移動支援の取組など、仕組みづくりを進める。
- ・ごみ出しや除雪、草取りなど高齢者の生活支援を行う。

《アンケートに寄せられた「あなたの望む地域」より》

- ・老人と子供の交流できる町。楽しく暮らせる町。
- ・世代間交流があり、地域活動が活発。防災・防犯の取りくみがされている地域。
- ・新旧住民が混在していても、お互いに顔、名前がわかる 関係。
- ・高齢者も、すべての人が夢と希望をもって暮らせるまちづく り。何か困った時、気軽に相談できる地域。

アンケート結果より 参加した方々からの感想を紹介します。

- ・自分で気づかなかった話が出て有意義でした。
- ・グループワークにおいて、若い学生さんのナビがあって良かった。うまく支えて頂いた。
- ・もっと話す事があった様に今になって思う。
- ・環境、田園地帯、農作物を作っている。農業を真剣に守っている我が地域が大好きです。高齢化している中でも若者が残り土地を守っています。店が無い中でも産直を活用し移動販売で買物支援も頑張っています。
- ・どうしても課題が多く出てくるので、前向きな意見が出るように工夫が欲しい。

進行役からひとこと!印象に残ったこと

- ・皆さん、自地区の活動を積極的に語っていた。課題意識だけでなく、誇りもあるのでは。
- ・どのグループでも世代間交流を活発化したい、という意見が出ており、盛岡市でもつながりがなくなっているということがわかりました。集まる機会を増やすことで、色々な年代の人が打ち解け合い、子どもの面倒を見たりするなどの関わりを増やすことができると思うので、今後はいかに人を集められるかが課題になると感じました。
- ・地域住民の生の声を聞くという機会が貴重であり、皆さんの望み、悩みについて一緒に考えることでとても良い学びになった。